平成 28 年度　一般社団法人 日本私立看護系大学協会
教育．学術および文化の国際交流事業　報告書

大学における
グローバル人材育成に
関する教育の実態調査

2017（平成 29）年３月

主催：一般社団法人 日本私立看護系大学協
企画：西南女学院大学
　　日本赤十字広島看護大学

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査目的 …… 1

2. 調査方法 …… 1

1）調査対象 …… 1
2）調査方法 …… 1
3）調査期間 …… 1

第2章 調査の結果

1. グローバル人材育成に関する貴大学の計画・方針，制度等 …… 2

1）回答があった 117 校の概要 …… 2
2）公表している中長期計画等へのグローバル人材育成に係る事項の記載状況 …… 2
3）グローバル人材育成に関する教育指針の策定状況 …… 3
4）グローバル人材育成に関するアクションプランの策定状況 …… 3
5）グローバル人材育成のための環境整備に関連する目標値の設定状況 …… 3
6）グローバル人材育成を促進する専門部署や担当の設置状況 …… 4
7）単位互換・認定の要件を示す交換留学制度の有無 …… 4
8）交換留学について …… 5
9）日本人学生の海外留学派遣に関する大学独自の経済的補助制度の有無 …… 6
10）受入留学生に対する大学独自の経済的補助制度の有無 …… 6
11）定期的な留学セミナーの実施状況 …… 6
12）受入留学生の相談相手となるメンター制度の有無 …… 6
13）日本人学生の短期留学制度や学生交流プログラム …… 7

2. 看護系学部・学科／研究科（修士課程）の留学生の受入状況，学生の海外への派遣状況 …… 8

1）回答があった117校の看護系学部・学科／研究科（修士課程）の概要 …… 8
（1）海外からの留学生等の受入状況
（2）海外への学生の派遣状況
2）外国人在学生について …… 10

3. 看護系学部・学科／研究科（修士課程）の語学力・コミュニケーション力の養成について …… 11

1）英語（外国語）について …… 11
（1）必修の有無と単位数について
（2）英語（外国語）の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合，授業形態など
2）第二外国語について …… 12
（1）必修の有無と単位数について
（2）第二外国語の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合，授業形態など
3）学生に対するアカデミックライティングに関する指導の有無 …… 14
4）卒業や進級のための語学に関する一定以上の資格（スコア）必須の有無 …… 14
5）卒業や進級のための海外への留学必須の有無 …… 14
6）語学の授業以外に英語で行われる科目履修の義務付け …… 15
7）一般教養科目，専門科目の英語にて授業が行われる割合 …… 15
8）外国の大学との単位互換，双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム …… 16
（ダブル・ディグリー・プログラム），共同カリキュラム（ジョイントプログラム）の導入の有無
（1）単位互換の導入有無
（2）双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム（ダブル・ディグリー・プログラム）の導入有無
（3）共同カリキュラム（ジョイントプログラム）の導入有無
9）単位互換を円滑にするための授業科目の計画的な履修方針に基づいた …… 17
授業科目名や体系策定の導入有無
10）成績評価の仕組み …… 17
11）GPA 制度の導入有無 …… 18
12）外国人留学生と日本人学生との交流や協働を図るための定常的な制度やイベント …… 18
（学部・学科/研究科等の主催のワークショップやキャンプなど，留学生交流サークルの活動除く）の有無
13）グループワークや討論等，プレゼンテーション能力やディベート力の修得を目的とした取り組みの有無 …… 19

4. 看護系学部・学科／研究科の学生の異文化に対する理解やアイデンティティを涵養するための取り組みについて …… 20

1)（一般教養科目として）異文化理解や異文化コミュニケーションをテーマとする授業の有無 …… 20
2)（一般教養科目として）「日本」の文化や歴史をテーマとする授業の有無 …… 20
3)（専門科目として）科目のなかで，国際社会と関連づけた内容を教授する科目の有無 …… 20
4)グループワークやフィールドワークなど，外国人留学生と日本人学生が協働で課題を解決するような授業の有無 …… 21
5)外国人留学生と討論する等，伝える力やディベート力の修得を目的とした授業の有無 …… 21
6)外国人留学生から異文化を学ぶ講演会や討論会などの開催の有無 …… 22
7)英語のみで学位を取得できるコースの有無 …… 22
8)海外留学生の受入れや海外への学生派遣の促進，学習効果向上(短期集中型の授業)等のために，柔軟なアカデミックカレンダー(クォーター制,3 学期制,セメスター制等)の導入有無 …… 22

5. 看護系学部・学科／研究科の学生の主体性，チャレンジ精神，協調性，責任感を涵養するための取り組みについて …… 23

1)(演習科目を除いて)一般教養基礎科目及び専門科目についての 1 クラスあたりのおおよその上限の学生数 …… 23
2)1 年時からの演習方式(ゼミ方式)の授業の有無 …… 23
3)教員と学生との質疑応答が積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無 …… 24
4)学生同士のディスカッションが積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無 …… 24
5)学生によるグループワーク（協働作業によるレポート作成など）の組織的促進の有無 …… 24
6)学生による課題解決型学習（PBL 等)を組織的促進の有無 …… 25
7)授業の中でコンテストや大会などを実施し，競争環境を作る仕組みを組織的促進の有無 …… 25
8)授業における交流・連携の組織的促進の有無 …… 26
9)授業以外で，施設・企業等の人材から直接その経験を聞いたり助言を受けたりする等の機会の有無 …… 26
10)施設・企業等と連携して行うグローバルビジネスをテーマとした授業を提供することを組織的促進の有無 …… 26
11)学生同士の交流・協働を図る定常的な制度・取組の有無 …… 27
12)学生の国内外へのインターンシップを促進させるための制度・取組の有無 …… 27
13)学生の国内外へのボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組の有無 …… 28
14)学共同イベントやプログラムの開発など国内外の大学との連携や交流の有無 …… 28
15)入学決定者に社会体験を行う等の学生の経験を重視した入学時期の弾力化(ギャップイヤー)の導入有無 …… 29

■貴学における育成すべきグローバル人材像 …… 30
■グローバル人材育成に関して，貴学部・学科が特に注力していること …… 31

資料

調査表 …… 32

第1章　調査の概要

1. 調査目的

多くの私立看護系大学において，グローバル人材の育成という観点から，異文化を体験する多様な教育機会の提供，言語教育，授業方法，形態の工夫等，グローバル化に対応する教育が進んでいる．

そこで，本委員会では看護教育におけるグローバル人材育成について，さらに議論を進めるために，各大学が取り組んでいる教育目標および教育課程の編成，学生に対する教育，教育を提供する体制等，教育の現状と課題を明らかにし，本協会における国際交流活動の基礎資料とすることを目的とし，大学におけるグローバル人材育成に関する教育の現状を把握するものである．

2. 調査方法

1）調査対象：日本私立看護系大学協会加盟校（平成 28 年 12 月現在） 170 校

2）調査方法：日本私立看護系大学協会のホームページを活用した WEB 調査とし，事務局から調査依頼文書を加盟校に郵送およびＥメールにて送付した．調査内容は，先行研究・調査内容等を検討した結果，みずほ情報総研株式会社が実施した「平成 23 年度中小企業産学連携人材育成事業調査：大学におけるグローバル人材育成のための指標調査」を参考に調査項目を作成した．その際，みずほ情報総研株式会社に調査票の使用許可を得た．（＊巻末の調査票参照）

3）調査期間（WEB 調査）：平成 29 年 1 月 30 日～ 3 月 10 日

第2章　調査の結果

1. グローバル人材育成に関する貴大学の計画・方針，制度等

1）回答があった 117 校の概要

117 校のうち大学 109 校，短期大学 8 校であった．大学 108 校の内訳は総合大学 44 校(40.4%)，複合大学 38 校(34.9%)，単科大学 27 校(24.8%)であった(表 1)．大学院の有無は，42 校(38.5%)に修士・博士課程があり，34 校(31.2%)に修士課程があると回答していた(表 2)．短期大学の内訳は，総合短期大学 1 校(12.5%)，複合短期大学 3 校(37.5%)，単科短期大学 4 校(50.5%)であった(表 1)．

表 1：大学の類型

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
単科	27	24.8	4	50.0
複合	38	34.9	3	37.5
総合	44	40.4	1	12.5
計	109	100.0	8	100.0

表 2：大学院の有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
ない	33	30.3	8	100.0
ある(修士)	34	31.2	0	0.0
ある(修士・博士)	42	38.5	0	0.0
計	109	100.0	8	100.0

2）公表している中長期計画等へのグローバル人材育成に係る事項の記載状況

中長期計画等へのグローバル人材育成に係る事項の記載の有無については，「記載されている」と回答した大学は 56 校(51.4%)であった(表 3)．大学の類型別に見ると，「記載されている」と回答したのは総合大学 44 校中 27 校(61.4%)であり，複合大学は 38 校中 18 校(47.4%)，単科大学では 27 校中 11 校(40.7%)であった．短期大学では 8 校全校が「記載されていない」と回答した(表 4)．育成すべきグローバル人材像をどのように描いているかについての自由記述部分には，「人種・文化・信条を超えた看護を実践できる看護職」「語学だけでなく看護専門職としての国際的な視野の育成」「国際社会での交流・社会活動の方法の習得」「外国語語学力・コミュニケーション力を用いた自己表現」など多様な内容が記載されていた．変化する社会において看護が果たす役割を認識し，国際的な視野を持ち，看護を通して国内外の健康に貢献できることを意識した内容が多く見られた．

表 3：中長期計画等へのグローバル人材育成に係る事項の記載有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
記載されている	56	51.4	0	0.0
記載されていない	53	48.6	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

表 4：大学の類型別にみた中長期計画等へのグローバル人材育成に係る事項の記載有無

	記載されている		記載されていない		計	
	校	%	校	%	校	%
単科大学	11	40.7	16	59.3	27	100.0
総合大学	18	47.4	20	52.6	38	100.0
総合大学	27	61.4	17	38.6	44	100.0
計	56		53		109	

3）グローバル人材育成に関する教育指針の策定状況

グローバル人材育成に関する教育指針(ポリシー等)の策定の有無については，大学では 47 校(43.1%)が「策定している」と回答し，24 校(22.0%)が「策定予定である」，38 校(34.9%)が「策定の予定はない」であった．また，短期大学は全校が「策定の予定がない」と回答していた(表 5)．

表 5：グローバル人材育成に関する教育指針（ポリシー等）の策定有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
策定している	47	43.1	0	0.0
策定予定である	24	22.0	0	0.0
策定の予定はない	38	34.9	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

4）グローバル人材育成に関するアクションプランの策定状況

グローバル人材育成に関するアクションプラン(実施期限を決めた行動計画)の策定については，大学の 39 校(35.8%)が「策定している」と回答し，28 校(25.7%)が「策定予定である」，42 校(38.5%)が「策定の予定はない」と回答していた(表 6)．

表 6：グローバル人材育成に関するアクションプラン（実施期限を決めた行動計画）の策定有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
策定している	39	35.8	0	0.0
策定予定である	28	25.7	0	0.0
策定の予定はない	42	38.5	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

5）グローバル人材育成のための環境整備に関連する目標値の設定状況

グローバル人材育成のための環境整備等に関連する目標値の設定については，大学の 33 校(30.3%)が「設定している」，76 校(69.7%)が「設定していない」と回答していた(表 7)．目標値を「設定している」と回答した 33 大学の内容については，受入留学生数(22 校，66.7%)，大学間交流協定数(22 校，66.7%)，派遣留学生数(21 校，63.6%)，英語による科目・プログラムの開設数(11 校，33.3%)，海外派遣教職員数(7 校，21.2%)，外国籍教員数(6 校，18.2%)，TOEIC などの語学検定スコア取得者数(6 校，18.2%)等であった(表 8)．

表 7：グローバル人材育成のための環境整備等に関連する目標値の設定有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
設定している	33	30.3	0	0.0
設定していない	76	69.7	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

表 8：グローバル人材育成に目標値を設定している内容（大学）（複数回答）

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
受入留学生数	22	66.7	0	0.0
派遣留学生数	21	63.6	0	0.0
外国籍教員数	6	18.2	0	0.0
大学間交流協定数	22	66.7	0	0.0
海外派遣教職員数	7	21.2	0	0.0
英語による科目・プログラムの開設数	11	33.3	0	0.0
海外拠点数	2	6.1	0	0.0
受入留学生の国・地域数	3	9.1	0	0.0
TOEIC などの語学検定スコア（一定レベル以上）取得者数	6	18.2	0	0.0
その他	1	3.0	0	0.0
		n=33		n=8

〔TOEIC などの語学検定スコア（一定レベル以上）取得者数 具体例〕
・TOEIC 650点以上獲得者 20名以上
・TOEICの点数による支援金の支給がある
・iBT80 点以上，TOEIC730以上380人
・外国語語学スタンダード達成者 50人/年
・CEFR B2 以上
・CASEC B

〔その他 具体例〕
・2020年度までに交換留学制度（単位互換・認定の要件）充実

6）グローバル人材育成を促進する専門部署や担当の設置状況

専門部署や専任/兼任の担当者を置いているかについては，大学の 51 校(46.8%)が「置いていない」であった．一方，「専門部署を置いている」大学が 20 校(18.3%)，「専門部署を置かず，すべての部署で促進を行っている」大学が 34 校(31.2%)，「専門部署を置いていないが，専任/兼任の担当者を置いている」大学が 4 校(3.7%)であった．短期大学は全校が専門部署や担当者を置いていなかった(表 9)．

表 9:グローバル人材育成を促進する専門部署や専任/兼任の担当者の有無（大学）

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
専門部署を置かず，すべての部署で促進を行っている	34	31.2	0	0.0
専門部署を置いている	20	18.3	0	0.0
専門部署を置いていないが，専任/兼任の担当を置いている	4	3.7	0	0.0
置いていない	51	46.8	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

7）単位互換・認定の要件を示す交換留学制度の有無

交換留学制度(単位互換・認定の要件を示すもの)については，大学の 34 校(31.2%)が「ある」，75 校(68.8%)が「ない」と回答した．短期大学は全校に交換留学制度が無かった(表 10)．

表 10: 交換留学制度（単位互換・認定の要件を示すもの）の有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
ある	34	31.2	0	0.0
ない	75	68.8	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

8）交換留学について

交換留学について以下の回答が大学 109 校からあった. 短期大学は交換留学についての回答はなかった. 交換留学生の人数枠については,「0 人」と回答した大学が 79 校(72.5%),「1～30 人」と回答した大学が 20 校(18.3%),「31～60 人」が 6 校(5.5%)等であった. また, 平成 28 年度の交換留学生人数枠のうち派遣留学生数については,「0 人」と回答した大学が 78 校(71.6%),「1～30 人」が 25 校(22.9%)等であった(表 11). 交換留学協定を結んでいる大学数は,「0 校」と回答した大学が 61 校(56.0%)であり, 結んでいる大学は 48 校(44.0%)であった. 結んでいる大学の中で「1～20 校」と協定を結んでいるのが 39 校(35.8%),「21～40 校」と協定を結んでいるのが 4 校(3.7%)であった. また, 平成 28 年度に, 交換留学協定を結んでいた大学 48 校のうち実際に派遣を行った大学は 38 校で, そのうち 34 校(31.2%)が 1～20 校へ派遣しており, 最も多かった. 交換留学協定を結んでいる国や地域の数については,「1～10 ヵ所」と回答した大学が 38 校(34.9%)と最も多く, 次いで「11～20 ヵ所」が 6 校(5.5%)等であった(表 11).

表 11：交換留学生について

	大学			短期大学		
	枠人数	校	%	枠人数	校	%
交換留学人数枠	0	79	72.5	0	8	100.0
	1~30	20	18.3	1~30	0	0.0
	31~60	6	5.5	31~60	0	0.0
	61~90	1	0.9	61~90	0	0.0
	91~120	0	0.0	91~120	0	0.0
	121~150	1	0.9	121~150	0	0.0
	151~	2	1.8	151~	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	学生数	校	%	学生数	校	%
交換留学人数枠のうち, 派遣留学生数(平成28年度)	0	78	71.6	0	8	100.0
	1~30	25	22.9	1~30	0	0.0
	31~60	1	0.9	31~60	0	0.0
	61~90	1	0.9	61~90	0	0.0
	91~120	2	1.8	91~120	0	0.0
	121~150	0	0.0	121~150	0	0.0
	151~	2	1.8	151~	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	締結校数	校	%	締結校数	校	%
交換留学協定を結んでいる大学数	0	61	56.0	0	8	100.0
	1~20	39	35.8	1~20	0	0.0
	21~40	4	3.7	21~40	0	0.0
	41~60	1	0.9	41~60	0	0.0
	61~80	1	0.9	61~80	0	0.0
	81~100	0	0.0	81~100	0	0.0
	101~	3	2.8	101~	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	派遣校数	校	%	派遣校数	校	%
交換留学協定を結んでいる大学数のうち, 実際に派遣を行った大学数（平成28年度）	0	71	65.1	0	8	100.0
	1~20	34	31.2	1~20	0	0.0
	21~40	1	0.9	21~40	0	0.0
	41~60	1	0.9	41~60	0	0.0
	61~80	0	0.0	61~80	0	0.0
	81~100	0	0.0	81~100	0	0.0
	101~	2	1.8	101~	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	国・地域数	校	%	国・地域数	校	%
交換留学協定を結んでいる国・地域数	0	62	56.9	0	8	100.0
	1~10	38	34.9	1~10	0	0.0
	11~20	6	5.5	11~20	0	0.0
	21~30	1	0.9	21~30	0	0.0
	31~40	0	0.0	31~40	0	0.0
	41~50	1	0.9	41~50	0	0.0
	51~	1	0.9	51~	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0

9）日本人学生の海外留学派遣に関する大学独自の経済的補助制度の有無

日本人学生の海外留学派遣に関する大学独自の経済的補助制度については,「ある」と回答した大学が 48 校(44.0%)であり, 短期大学 8 校のうち 1 校(12.5%)であった(表 12).

表 12：日本人学生の海外留学派遣に関する大学独自の経済的補助制度の有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
ある	48	44.0	1	12.5
ない	61	56.0	7	87.5
計	109	100.0	8	100.0

10）受入留学生に対する大学独自の経済的補助制度の有無

受入留学生に対する大学独自の経済的補助制度については,「ある」と回答した大学が 40 校(36.7%)であり, 短期大学では 1 校(12.5%)であった(表 13).

表 13：日本人学生の海外留学派遣に関する大学独自の経済的補助制度の有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
ある	40	36.7	1	12.5
ない	69	63.3	7	87.5
計	109	100.0	8	100.0

11）定期的な留学セミナーの実施状況

定期的な留学セミナーを行っているかについては, 大学の 40 校(36.7%)が「行っている」と回答していた. 短期大学は全校が「行っていない」と回答していた(表 14).

表 14：定期的な留学セミナーの実施有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
行っている	40	36.7	0	0.0
行っていない	69	63.3	8	100.0
計	109	100.0	8	100.0

12）受入留学生の相談相手となるメンター制度の有無

受入留学生の学内生活に関して学生等が相談相手となるメンター制度を構築しているかについては, 大学の 26 校(23.9%), 短期大学の 2 校(25.0%)が「構築している」と回答していた(表 15).

表 15：受入留学生の相談相手となるメンター制度の有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
構築している	26	23.9	2	25.0
構築していな	83	76.1	6	75.0
計	109	100.0	8	100.0

13）日本人学生の短期留学制度や学生交流プログラム

日本人学生が異文化の中で生活を行う短期留学制度や学生交流プログラムの有無については，大学の 75 校（68.8％），短期大学の 3 校（37.5％）が「ある」と回答していた（表 16）．

表 16：日本人学生の短期留学制度や学生交流プログラムの有無

	大学		短期大学	
	校	%	校	%
ある	75	68.8	3	37.5
ない	34	31.2	5	62.5
計	109	100.0	8	100.0

2. 看護系学部・学科／研究科(修士課程)の留学生の受入状況，学生の海外への派遣状況

1）回答があった 117 校の看護系学部・学科／研究科（修士課程）の概要

大学・短期大学とも 1 学年定員数は，「71～90 人」が最も多く，大学 60 校(55.0%)，短期大学 5 校(62.5%)と半数を超えていた．次に多いのは大学 29 校(26.6%)が「91～110 人」であった．研究科(修士課程)では，「1～10 人」が最も多く 31 校(40．8%)であった．

表 17：学年の定員数について

大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
人	校	%	人	校	%	人	校	%
31～50	3	2.8	31～50	0	0.0	0	6	7.9
51～70	4	3.7	51～70	0	0.0	1～10	31	40.8
71～90	60	55.0	71～90	5	62.5	11～20	11	14.5
91～110	29	26.6	91～110	1	12.5	21～30	4	5.3
111～130	9	8.3	111～130	1	12.5	31～	3	3.9
131～150	1	0.9	131～150	0	0.0	未回答	21	27.6
151～	3	2.8	151～	1	12.5	計	76	100.0
計	109	100.0	計	8	100.0			

（1）海外からの留学生等の受入状況

海外からの留学生等の受入状況は，大学 96 校(88.1%)，短期大学 5 校(62.5%)，研究科(修士課程)53 校(69.7%)は「0 人」だった．少数ではあるが，大学 10 校(9.2%)，短期大学 3 校(37.5%)には「1～10 人」の留学生が，研究科(修士課程)1 校(1.3%)には「1～5 人」の留学生がおり，中には 21 人を超える留学生がいる大学もあった．受入期間としては，短期留学生(1年以内)が学位修得を目的とした長期(1年超)より多かった(表 18-1)．また，留学生が卒業するために必要な単位数は，大学 79 校(72.5%)が「121～135 単位」，短期大学7校(87.5%)が「91～105 単位」と回答している．留学生の国・地域数は，「1ヵ所」の大学が 11 校(10.1%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)と多いが，複数の国・地域から留学生を受入れている大学もあった(表 18-2)．

表 18-1：海外からの留学生等の受入状況（留学生数，留学期間）

A 海外からの留学生等の受け入れ状況	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
学生数のうち受入留学生数	0	96	88.1	0	5	62.5	0	53	69.7
	1～10	10	9.2	1～10	3	37.5	1～5	1	1.3
	11～20	2	1.8	11～20	0	0.0	6～	0	0.0
	21～	1	0.9	21～	0	0.0	未回答	22	28.9
	計	109	100.0	計	8	100.0	計	76	100.0
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
受入留学生のうち短期留学生(1年以内)	0	4	30.8	0	3	100.0	0	50	65.8
	1~5	6	46.2	1~5	0	0.0	1~5	1	1.3
	6~10	1	7.7	6~10	0	0.0	6~	0	0.0
	11~15	2	15.4	11~15	0	0.0	未回答	25	32.9
	16~	0	0.0	16~	0	0.0	計	76	100.0
	計	13	100.0	計	3	100.0			
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
受入留学生のうち学位取得を目的とした留学生(1年超)	0	7	53.8	0	0	0.0	0	49	64.5
	1~5	4	30.8	1~5	2	66.7	1~5	1	1.3
	6~10	1	7.7	6~10	1	33.3	6~	0	0.0
	11~15	0	0.0	11~15	0	0.0	未回答	26	34.2
	16~	1	7.7	16~	0	0.0	計	76	100.0
	計	13	100.0	計	3	100.0			

表 18-2：海外からの留学生等の受入状況（留学生の地域，卒業単位）

A 海外からの留学生等の受け入れ状況	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
	ヵ所	校	%	ヵ所	校	%	ヵ所	校	%
受入留学生の国・地域数	0	92	84.4	0	4	50.0	0	50	65.8
	1	11	10.1	1	4	50.0	1	1	1.3
	2	2	1.8	2	0	0.0	未回答	25	32.9
	3	2	1.8	3	0	0.0	計	76	100.0
	4	2	1.8	4	0	0.0			
	計	109	100.0	計	8	100.0			
	単位	校	%	単位	校	%	単位	校	%
卒業に必要な単位数	0	30	27.5	0	0	0.0	0	19	25.0
	1～90	0	0.0	1～90	0	0.0	1～25	0	0.0
	91～105	0	0.0	91～105	7	87.5	26～50	32	42.1
	106～120	0	0.0	106～120	1	12.5	51～	1	1.3
	121～135	79	72.5	121～135	0	0.0	未回答	24	31.6
	136～	0	0.0	136～	0	0.0	計	76	100.0
	計	109	100.0	計	8	100.0			

（2）海外への学生の派遣状況

現在，短期留学生(1年以内)として，大学 88 校(80.7%)，短期大学 7 校(87.5%)，研究科(修士課程)52 校(68.4%)では学生を派遣していない．一方，短期留学生として派遣していると回答した大学では 12 校(11.0%)が「1～10 人」を，4 校(3.7%)は「11～20 人」と回答していた．中には 30 人以上の短期留学生を派遣している大学や研究科(修士課程)もあった．海外研修生(単位認定を行うもの)については，短期留学生と同様に派遣していないところが多いが，大学 14 校(12.8%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)2 校(2.6%)は，海外研修生を派遣していた．中には「51 人～」の学生を派遣している大学もあった．

表 19：海外への学生の派遣状況

B 海外への学生の派遣状況	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
学生数のうち短期留学生（1 年以	0	88	80.7	0	7	87.5	0	52	68.4
	1～10	12	11.0	1～10	0	0.0	1～10	0	0.0
	11～20	4	3.7	11～20	1	12.5	11～20	0	0.0
	21～30	0	0.0	21～30	0	0.0	21～30	0	0.0
	31～40	2	1.8	31～40	0	0.0	31～40	1	1.3
	41～50	0	0.0	41～50	0	0.0	41～50	0	0.0
	51～	3	2.8	51～	0	0.0	未回答	23	30.3
	計	109	100.0	計	8	100.0	計	76	100.0
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
学生数のうち海外研修生（単位認定を行うもの）	0	95	87.2	0	7	87.5	0	50	65.8
	1～10	3	2.8	1～10	0	0.0	1～10	1	1.3
	11～20	4	3.7	11～20	1	12.5	11～20	1	1.3
	21～30	2	1.8	21～30	0	0.0	21～30	0	0.0
	31～40	3	2.8	31～40	0	0.0	31～40	0	0.0
	41～50	0	0.0	41～50	0	0.0	41～50	0	0.0
	51～	2	1.8	51～	0	0.0	未回答	24	31.6
	計	109	100.0	計	8	100.0	計	76	100.0

2）外国人在学生について

外国人枠での入試制度については，大学の 11 校(10.1%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)4 校(5.3%)が「設けている」と回答していた．「設けている」と回答した大学 11 校の外国人枠数は，3 校(27.3%)が「1 名」，1 校(9.1%)が「2 名」であった．また，現在，大学に外国人枠で在校している留学生は，「1～5 名」2 校(5.7%)，「6～10 名」2 校(5.7%)，「11 名～」1 校であった．

表 20：外国人枠での入試制度の有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
設けている	11	10.1	1	12.5	4	5.3
設けていない	98	89.9	7	87.5	51	67.1
未回答	0	0.0	0	0.0	21	27.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 21：外国人枠の状況

	大学（学部･学科）			短期大学（学部･学科）			研究科(修士課程)		
	枠人数	校	%	枠人数	校	%	枠人数	校	%
「設けている」と回答した場合の	0	7	63.6	0	1	100.0	0	2	2.6
外国人枠	1	3	27.3	1	0	0.0	1	1	1.3
	2	1	9.1	2	0	0.0	10	1	1.3
	計	11	100.0	計	1	100.0	未回答	72	94.7
							計	76	100.0
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
外国人枠で留学している	0	31	86.1	0	1	50.0	0	0	0.0
在学生数	1～5	2	5.6	1～5	1	50.0	1～5	1	1.3
	6～10	2	5.6	6～10	0	0.0	6～10	0	0.0
	11～	1	2.8	11～	0	0.0	11～	0	0.0
	計	36	97.2	計	2	100.0	未回答	75	98.7
							計	76	100.0

3. 看護系学部・学科／研究科（修士課程）の語学力・コミュニケーション力の養成について

1）英語（外国語）について

（1）必修の有無と単位数について

研究科（修士課程）では，3 校（3.9％）が英語（外国語）を「必修である」と回答し，53 校（69.7％）が「必修でない」と回答していた（表 22）．英語（外国語）の必修単位数では，大学 80 校（73.4％），短期大学 6 校（75.0％），研究科（修士課程）4 校（5.3％）が「1～5 単位」と最も多かった．大学では次いで「6～10 単位」が 27 校（24.8％）と多かった（表 23）．

表 22：研究科（修士課程）における英語（外国語）の必修有無

	研究科(修士課程)	
	校	%
必修である	3	3.9
必修でない	53	69.7
未回答	20	26.3
計	76	100.0

表 23：英語（外国語）の必修単位数

大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
単位	校	%	単位	校	%	単位	校	%
0	2	1.8	0	1	12.5	0	0	0.0
1～5	80	73.4	1～5	6	75.0	1～5	4	5.3
6～10	27	24.8	6～10	0	0.0	6～10	0	0.0
11～	0	0.0	11～	1	12.5	11～	0	0.0
計	109	100.0	計	8	100.0	未回答	72	94.7
						計	76	100.0

（2）英語（外国語）の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合，授業形態など

英語（外国語）の授業の受講者数は「1クラス:31～45 人」が大学 43 校（39.4％），短期大学 5 校（62.5％）と最も多く，次いで大学では「1クラス:16～30 人」が 40 校（36.7％）と多かった．また，ネイティブ教員による授業割合は，大学では「0％」が 34 校（31.2％）と最も多く，次いで「41～60％」が 25 校（22.9％）と多かった（表 24）．

授業にグループワーク（会話やプレゼンテーションなどの実践的なコミュニケーション力を形成する実習）を取り入れることを組織的に方向づけているかについては，大学 53 校（48.6％），短期大学 3 校（37.5％），研究科（修士課程）4 校（5.3％）が「方向づけている」と回答し，大学 56 校（51.4％），短期大学 5 校（62.5％），研究科（修士課程）25 校（32.9％）が「方向づけていない」と回答していた（表 25）．

習熟度別に編成されているクラスの有無については，大学 54 校（49.5％），短期大学 1 校（12.5％）が「習熟度別クラスがある」と回答しており，大学 19 校では「すべての授業」において習熟度別クラスを編成していた．一方，大学 55 校（50.5％），短期大学 7 校（87.5％），研究科（修士課程）23 校（30.3％）では「習熟度別クラスはない」と回答していた（表 26）．

表 24：英語(外国語)の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合

		大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)	
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
英語(外国語)の授業の1クラスあたりの受講者数	1～15	1	0.9	1～15	0	0.0	0	20	26.3
	16～30	40	36.7	16～30	3	37.5	1～5	5	6.6
	31～45	43	39.4	31～45	5	62.5	未回答	51	67.1
	46～60	14	12.8	46～60	0	0.0	計	76	100.0
	61～75	2	1.8	61～75	0	0.0			
	76～90	4	3.7	76～90	0	0.0			
	90～	5	4.6	90～	0	0.0			
	計	109	100.0	計	8	100.0			

	授業%	校	%	授業%	校	%	授業%	校	%
英語(外国語)の授業におけるネイティブの教員による授業割合	0	34	31.2	0	2	25.0	0	24	31.6
	1～20	12	11.0	1～20	0	0.0	1～20	0	0.0
	21～40	20	18.3	21～40	3	37.5	21～40	1	1.3
	41～60	25	22.9	41～60	0	0.0	41～60	1	1.3
	61～80	10	9.2	61～80	2	25.0	61～80	0	0.0
	81～100	8	7.3	81～100	1	12.5	81～100	1	1.3
	計	109	100.0	計	8	100.0	未回答	49	64.5
							計	76	100.0

表 25：英語(外国語)の授業にグループワークを取り入れることの組織的な方向づけの有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
方向づけている	53	48.6	3	37.5	4	5.3
方向づけていない	56	51.4	5	62.5	25	32.9
未回答	0	0.0	0	0.0	47	61.8
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 26：習熟度別に編成されている英語(外国語)のクラスの有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
すべての授業	19	17.4	1	12.5	0	0.0
一部の授業	35	32.1	0	0.0	0	0.0
ない	55	50.5	7	87.5	23	30.3
未回答	0	0.0	0	0.0	53	69.7
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

2）第二外国語について

（1）必修の有無と単位数について

第二外国語では，大学 20 校(18.3%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)が「必修を実施している」と回答し，短期大学では全校が実施していなかった．大学では 14 校(12.8%)が「1～5 単位」を第二外国語の必修単位数とし，最も多かった(表 27)．

表 27：第二外国語の必修の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
実施している	20	18.3	0	0.0	1	1.3
実施していない	89	81.7	8	100.0	41	53.9
未回答	0	0.0	0	0.0	34	44.7
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

（2）第二外国語の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合，授業形態など

第二外国語の授業の受講者数は「1クラス:21～40 人」が大学 27 校(24.8%)，短期大学 2 校(25.0%)と「0 人」と回答した以外では最も多かった，また，ネイティブ教員による授業割合は，大学では「0～1%未満」が 63 校(57.8%)と最も多く，次いで「81～100%」が 16 校(14.7%)と多かった(表 28)．第二外国語を開設している場合，言語数は「1，2 言語」が大学 38 校(37.3%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)と多かった(表 29)．

また，授業にグループワーク(会話やプレゼンテーションなどの実践的なコミュニケーション力を形成する実習)を取り入れることを組織的に方向づけているかについては，大学 22 校(20.2%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)が「方向づけている」と回答し，大学 87 校(79.8%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)24 校(31.6%)が「方向づけていない」と回答していた(表 30)．

習熟度別に編成されているクラスの有無については，大学 105 校(96.3%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)23 校(30.3%)が「習熟度別クラスはない」と回答し，最も多かった．習熟度別クラスが編成されている大学 4 校(3.7%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)では，一部の授業に習熟度別クラスがあった(表 31)．

表 28：第二外国語の 1 クラスの受講者数，ネイティブ教員による授業割合

	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
	人	校	%	人	校	%	人	校	%
第二外国語の授業の1クラスあたりの受講者数	0	44	40.4	0	6	75.0	0	25	32.9
	1～20	25	22.9	1～20	0	0.0	1～20	0	0.0
	21～40	27	24.8	21～40	2	25.0	未回答	51	67.1
	41～60	11	10.1	41～60	0	0.0	計	76	100.0
	61～80	2	1.8	61～80	0	0.0			
	計	109	100.0	計	8	100.0			
	授業%	校	%	授業%	校	%	授業%	校	%
第二外国語の授業においてネイティブの教員による授業割合	0～0.9	63	57.8	0～0.9	7	87.5	0～0.9	25	32.9
	1～20	3	2.8	1～20	0	0.0	1～5	1	1.3
	21～40	9	8.3	21～40	0	0.0	6%	0	0.0
	41～60	12	11.0	41～60	0	0.0	未回答	50	65.8
	61～80	6	5.5	61～80	0	0.0	計	76	100.0
	81～100	16	14.7	81～100	1	12.5			
	計	109	100.0	計	8	100.0			

表 29：第二外国語の開設数（言語数）

大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）			研究科(修士課程)		
言語数	校	%	言語数	校	%	言語数	校	%
0	36	35.3	0	6	75.0	0	24	31.6
1, 2	38	37.3	1, 2	2	25.0	1, 2	1	1.3
3, 4	28	27.5	3, 4	0	0.0	未回答	51	67.1
5, 6	5	4.9	5, 6	0	0.0	計	76	100.0
7, 8	2	2.0	7, 8	0	0.0			
計	102	100.0	計	8	100.0			

表 30：第二外国語の授業にグループワークを取り入れることの組織的な方向づけの有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
方向づけている	22	20.2	0	0.0	1	1.3
方向づけていない	87	79.8	8	100.0	24	31.6
未回答	0	0.0	0	0.0	51	67.1
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 31：習熟度別に編成されている第二外国語のクラスの有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
すべての授業	0	0.0	0	0.0	0	0.0
一部の授業	4	3.7	0	0.0	1	1.3
ない	105	96.3	8	100.0	23	30.3
未回答	0	0.0	0	0.0	52	68.4
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

3）学生に対するアカデミックライティングに関する指導の有無

学生がアカデミックライティングに関する指導を受ける環境があるかについて，大学 41 校（37.6%），短大 2 校（25.0%），研究科（修士課程）11 校（14.5%）が「ある」と回答し，大学 68 校（62.4%），短期大学 6 校（75.0%），研究科 26 校（34.2%）が「ない」と回答していた（表 32）．

表 32：学生がアカデミックライティングに関する指導を受ける環境の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	41	37.6	2	25.0	11	14.5
ない	68	62.4	6	75.0	26	34.2
未回答	0	0.0	0	0.0	39	51.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

4）卒業や進級のための語学に関する一定以上の資格（スコア）必須の有無

卒業や進級のために一定以上の資格（スコア）を必須としているかについて，大学 108 校（99.1%），短大 8 校（100.0%），研究科（修士課程）56 校（73.7%）が「必須としてない」と回答し，「必須としている」のは大学 1 校，研究科（修士課程）1 校だけであった（表 33）．

表 33：卒業や進級のための語学に関する一定以上の資格（スコア）必須の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
必須としている	1	0.9	0	0.0	1	1.3
必須としていない	108	99.1	8	100.0	56	73.7
未回答	0	0.0	0	0.0	19	25.0
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

5）卒業や進級のための海外への留学必須の有無

卒業や進級のために海外への留学を必須としているかについては，大学 108 校（99.1%），短大 8 校（100.0%），研究科（修士課程）57 校（75.0%）が「必須としてない」と回答し，「短期の留学を必須としている」のは 1 大学だけであった（表 34）．

表 34：卒業や進級のための海外への留学必須の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
長期の留学を必須	0	0.0	0	0.0	0	0.0
短期の留学を必須	1	0.9	0	0.0	0	0.0
必須としていない	108	99.1	8	100.0	57	75.0
未回答	0	0.0	0	0.0	19	25.0
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

6）語学の授業以外に英語で行われる科目履修の義務付け

語学の授業以外に英語で行われる科目の履修を義務付けているかについては，大学 108 校（99.1%），短大 8 校（100.0%），研究科（修士課程）56 校（73.7%）が「義務付けていない」と回答し，「義務付けている」のは 1 大学だけであった（表 35）．

表 35：語学の授業以外に，英語で行われる科目の履修義務の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
義務付けている	1	0.9	0	0.0	0	0.0
義務付けていない	108	99.1	8	100.0	56	73.7
未回答	0	0.0	0	0.0	20	26.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

7）一般教養科目，専門科目の英語にて授業が行われる割合

一般教養科目では，大学 62 校（56.9%），短期大学 6 校（75.0%）が全科目のうち「0～1%未満」が英語で行われていると最も多く回答し，次いで大学では「1～20%」であった．専門科目では，大学 100 校（91.7%），短期大学 7 校（87.5%）が全科目のうち「0～1%未満」が英語で行われていると最も多く回答し，次いで大学では，一般教養科目と同様に「1～20%」であった（表 36-1）．研究科（修士課程）でも，大学，短期大学同様に専門科目の英語での授業実施割合は，「0～1%未満」が最も多かった（表 36-2）．

表 36-1：英語で行われる科目割合（大学・短期大学）

	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）		
	科目%	校	%	科目%	校	%
一般教養科目	0～0.9	62	56.9	0～0.9	6	75.0
	1～20	42	38.5	1～20	1	12.5
	21～40	3	2.8	21～40	1	12.5
	41～60	1	0.9	41～60	0	0.0
	61～80	0	0.0	61～80	0	0.0
	81～100	1	0.9	81～100	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	科目%	校	%	科目%	校	%
専門科目	0～0.9	100	91.7	0～0.9	7	87.5
	1～20	9	8.3	1～20	0	0.0
	21～40	0	0.0	21～40	0	0.0
	41～60	0	0.0	41～60	0	0.0
	61～80	0	0.0	61～80	0	0.0
	81～100	0	0.0	81～100	1	12.5
	計	109	100.0	計	8	100.0

表 36-2：英語で行われる科目割合（研究科）

	研究科(修士課程)		
	科目%	校	%
全科目	0～0.9	44	57.9
	1～10	6	7.9
	11～20	2	2.6
	未回答	24	31.6
	計	76	100.0

8）外国の大学との単位互換，双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム（ダブル・ディグリー・プログラム），共同カリキュラム（ジョイントプログラム）の導入の有無

（1）単位互換の導入有無

外国の大学との単位互換については，大学 10 校(9.2%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)が「導入済み」と回答し，大学 1 校は「導入予定」であり，大学 9 校(8.3%)，研究科(修士課程)4 校(5.3%)は「検討中」と回答した．一方，大学 89 校(81.7%)，短大 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)47 校(61.8%)は「検討していない」と回答していた(表 37)．

表 37：外国の大学との単位互換導入の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入済み	10	9.2	0	0.0	1	1.3
導入予定	1	0.9	0	0.0	0	0.0
検討中	9	8.3	0	0.0	3	3.9
検討していない	89	81.7	8	100.0	47	61.8
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

（2）双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム（ダブル・ディグリー・プログラム）の導入有無

双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム(ダブル・ディグリー・プログラム)については，大学 4 校(3.7%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)が「導入済み」と回答し，大学 1 校は「導入予定」であり，大学 4 校(3.7%)，研究科 4 校(5.3%)は「検討中」と回答した．一方，大学 100 校(91.7%)，短大 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)44 校(57.9%)は「検討していない」と回答していた(表 38)．

表 38：双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム（ダブル・ディグリー・プログラム）導入の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入済み	4	3.7	0	0.0	1	1.3
導入予定	1	0.9	0	0.0	0	0.0
検討中	4	3.7	0	0.0	4	5.3
検討していない	100	91.7	8	100.0	44	57.9
未回答	0	0.0	0	0.0	27	35.5
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

（３）共同カリキュラム（ジョイントプログラム）の導入有無

共同カリキュラム(ジョイントプログラム)については，大学 1 校(0.9%)，研究科(修士課程) 1 校(1.3%)が「導入済み」と回答し，大学 6 校(5.5%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)は「検討中」と回答した．一方，大学 102 校(93.6%)，短大 8 校(100.0%)，研究科(修士課程) 46 校(60.5%)は「検討していない」と回答していた(表 39)．

表 39：共同カリキュラム（ジョイントプログラム）導入の有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入済み	1	0.9	0	0.0	1	1.3
導入予定	0	0.0	0	0.0	0	0.0
検討中	6	5.5	0	0.0	3	3.9
検討していない	102	93.6	8	100.0	46	60.5
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

９）単位互換を円滑にするための授業科目の計画的な履修方針に基づいた授業科目名や体系策定の導入有無

授業科目の計画的な履修方針に基づいた授業科目名や体系策定については，大学 25 校(22.9%)，研究科(修士課程)7 校(9.2%)が「導入済み」と回答し，大学 7 校(6.4%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)は「導入予定」であり，大学 13 校(11.9%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)は「検討中」と回答した．一方，大学 64 校(58.7%)，短大 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)39 校(51.3%)は「検討していない」と回答していた(表 40)．

表 40：授業科目の計画的な履修方針に基づいた授業科目名や体系策定の導入有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入済み	25	22.9	0	0.0	7	9.2
導入予定	7	6.4	0	0.0	3	3.9
検討中	13	11.9	0	0.0	3	3.9
検討していない	64	58.7	8	100.0	39	51.3
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

10）成績評価の仕組み

成績評価の仕組みについては，大学 95 校(87.2%)，短期大学 7 校(87.5%)，研究科(修士課程)41 校(53.9%)が「絶対評価が基本である」と回答し，大学 14 校(12.8%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)11 校(14.5%)は「相対評価が基本である」と回答していた(表 41)．

表 41：成績評価の仕組みについて

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
絶対評価が基本	95	87.2	7	87.5	41	53.9
相対評価が基本	14	12.8	1	12.5	11	14.5
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

11）GPA 制度の導入有無

GPA 制度については，大学 85 校(78.0%)，短期大学 5 校(62.5%)，研究科(修士課程) 14 校(18.4%)が「(不可や未受験を含めた算定方式で)導入している」と回答し，大学 10 校(9.2%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)は「(不可や未受験を含めない算定方式で)導入している」と回答していた．GPA 制度を導入している場合，どのように活用しているかについては，「奨学金や授業料免除の基準」や「学生に対する個別学修の基準」が多かった． また，活用内容のその他では，保健師課程や助産師課程の学内選抜試験の基準とする内容が多くみられた．

表 42：GPA 制度の導入有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入している(不可や未受験を含める)	85	78.0	5	62.5	14	18.4
導入している(不可や未受験を含めない)	10	9.2	2	25.0	3	3.9
導入していない	14	12.8	1	12.5	34	44.7
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 43：GPA の活用内容（複数回答可）

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
奨学金や授業料免除の基準	60	55.0	5	62.5	10	13.2
学生に対する個別学修の基準	58	53.2	6	75.0	7	9.2
早期卒業・大学院への早期入学基準	0	0.0	0	0.0	1	1.3
大学院入試の選抜基準	3	2.8	0	0.0	1	1.3
退学勧告の基準	13	11.9	2	25.0	1	1.3
進級や卒業の判定基準	22	20.2	1	12.5	1	1.3
交換留学の選抜基準	4	3.7	1	12.5	0	0.0
その他	17	15.6	1	12.5	3	3.9
		n=109		n=8		n=76

〔その他 具体例〕
・国際看護コースの履修
・保健師課程，助産師課程への学内選抜試験の成績基準
・保健師課程コースの入学試験判定の一部を検討
・保健師課程希望者選抜試験（予定）
・保健師・助産師の選択基準
・保健師課程の選抜基準
・保健師・養護教諭選抜試験の基準
・海外研修の参加基準
・表彰学生の選考基準
・卒業時の表彰者
・表彰の選考基準の一つ

12）外国人留学生と日本人学生との交流や協働を図るための定常的な制度やイベント（学部・学科/研究科等の主催のワークショップやキャンプなど，留学生交流サークルの活動除く）の有無

外国人留学生と日本人学生との交流や協働を図るための定常的な制度やイベントについては，大学 19 校(17.4%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)が「ある」と回答し，大学 90 校(82.6%)，短期大学 7 校(87.5%)，研究科(修士課程)48 校(63.2%)は「ない」と回答していた(表 44)．

表 44：外国人留学生と日本人学生との交流や協働を図るための定常的な制度やイベントの有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	19	17.4	1	12.5	3	3.9
ない	90	82.6	7	87.5	48	63.2
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

13）グループワークや討論等，プレゼンテーション能力やディベート力の修得を目的とした取り組みの有無

グループワークや討論等，プレゼンテーション能力やディベート力の修得を目的とした取り組みについては，大学 64 校（58.7％），短期大学 5 校（62.5％），研究科（修士課程）17 校（22.4％）が「行っている」と回答し，大学 45 校（41.3％），短期大学 3 校（37.5％），研究科（修士課程）34 校（44.7％）は「行っていない」と回答していた．

表 45：グループワークや討論等，プレゼンテーション能力やディベート力の修得を目的とした取り組みの有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
行っている	64	58.7	5	62.5	17	22.4
行っていない	45	41.3	3	37.5	34	44.7
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

4. 看護系学部・学科／研究科の学生の異文化に対する理解やアイデンティティを涵養するための取り組みについて

1）（一般教養科目として）異文化理解や異文化コミュニケーションをテーマとする授業の有無

異文化理解や異文化コミュニケーションをテーマとする授業については，大学 83 校（76.1%），短期大学 2 校（25.0%）が「授業がある」と回答した．「授業がある」と回答した大学の中で，19 大学（17.4%）は「必修である」と回答し，64 大学（58.7%）は「選択である」と回答した．「授業がある」と回答した短期大学は全校「選択である」と回答していた．一方，「授業がない」と回答したのは，大学 26 校（23.9%），短期大学 6 校（75.0%）であった（表 46）．

表 46：（一般教養科目として）異文化理解や異文化コミュニケーションをテーマとする授業の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）	
	校	%	校	%
必修である	19	17.4	0	0.0
選択である	64	58.7	2	25.0
ない	26	23.9	6	75.0
未回答	0	0.0	0	0.0
計	109	100.0	8	100.0

2）（一般教養科目として）「日本」の文化や歴史をテーマとする授業の有無

「日本」の文化や歴史をテーマとする授業については，大学 74 校（67.9%），短期大学 2 校（25.0%）が「授業がある」と回答した．「授業がある」と回答した大学の中で，17 大学（15.6%）は「必修である」と回答し，57 大学（52.3%）は「選択である」と回答した．「授業がある」と回答した短期大学は全校「選択である」と回答していた．一方，「授業がない」と回答したのは，大学 35 校（32.1%），短期大学 6 校（75.0%）であった（表 47）．

表 47：（一般教養科目として）「日本」の文化や歴史をテーマとする授業の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）	
	校	%	校	%
必修である	17	15.6	0	0.0
選択である	57	52.3	2	25.0
ない	35	32.1	6	75.0
未回答	0	0.0	0	0.0
計	109	100.0	8	100.0

3）（専門科目として）科目のなかで，国際社会と関連づけた内容を教授する科目の有無

国際社会と関連づけた内容を教授する科目については，大学 90 校（82.5%），短期大学 7 校（87.5%），研究科（修士課程）26 校（34.2%）が「科目がある」と回答した．「科目がある」と回答した大学の中で，54 校（49.5%）は「1 科目」と回答し，36 校（33.0%）は「複数科目」と回答した．「科目がある」と回答した短期大学の中で，5 校（62.5%）は「1 科目」と回答し，2 校（25.0%）は「複数科目」と回答していた．「科目がある」と回答した研究科（修士課程）の中で，11 校（14.5%）は「1 科目」と回答し，15 校（19.7%）は「複数科目」と回答していた．一方，「科目がない」と回答したのは，大学 19 校（17.4%），短期大学 1 校（12.5%），研究科（修士課程）27 校（35.5%）であった（表 48）．

表 48：（専門科目として）科目のなかで，国際社会と関連づけた内容を教授する科目の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある(1科目)	54	49.5	5	62.5	11	14.5
ある(複数科目)	36	33.0	2	25.0	15	19.7
ない	19	17.4	1	12.5	27	35.5
未回答	0	0.0	0	0.0	23	30.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

4）グループワークやフィールドワークなど，外国人留学生と日本人学生が協働で課題を解決するような授業の有無

外国人留学生と日本人学生が協働で課題を解決するような授業については，大学 13 校(11.9%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)4 校(5.3%)が「授業がある」と回答した．一方，「授業がない」と回答したのは，大学 96 校(88.1%)，短期大学 6 校(75.0%)，研究科(修士課程)49 校(64.5%)であった(表 49)．

表 49：外国人留学生と日本人学生が協働で課題を解決するような授業の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	13	11.9	2	25.0	4	5.3
ない	96	88.1	6	75.0	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	23	30.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

5）外国人留学生と討論する等，伝える力やディベート力の修得を目的とした授業の有無

伝える力やディベート力の修得を目的とした授業については，大学 15 校(13.8%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)2 校(2.6%)が「授業がある」と回答した．一方，「授業がない」と回答したのは，大学 94 校(86.2%)，短期大学 7 校(87.5%)，研究科(修士課程)50 校(65.8%)であった(表 50)．

表 50：外国人留学生と討論する等，伝える力やディベート力の修得を目的とした授業の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	15	13.8	1	12.5	2	2.6
ない	94	86.2	7	87.5	50	65.8
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

6）外国人留学生から異文化を学ぶ講演会や討論会などの開催の有無

外国人留学生から異文化を学ぶ講演会や討論会などの開催については，大学 19 校(17.5%)，研究科(修士課程)8 校(10.5%)が「開催している」と回答した．「開催している」と回答した大学の中で，3 校(2.8%)は「定期的に開催」と回答し，16 校(14.7%)は「不定期に開催」と回答した．「開催している」と回答した研究科(修士課程)の全校が「不定期に開催」と回答していた．一方，「開催していない」と回答したのは，大学 90 校(82.6%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)43 校(56.6%)であった．

表 51：外国人留学生から異文化を学ぶ講演会や討論会などの開催の有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
定期的に開催	3	2.8	0	0.0	0	0.0
不定期に開催	16	14.7	0	0.0	8	10.5
してない	90	82.6	8	100.0	43	56.6
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

7）英語のみで学位を取得できるコースの有無

英語のみで学位を取得できるコースについては，大学 1 校(0.9%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)が「コースはある」と回答した．一方，「コースはない」と回答したのは，大学 108 校(99.1%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)49 校(64.5%)であった(表 52)．

表 52：英語のみで学位を取得できるコースの有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	1	0.9	0	0.0	3	3.9
ない	108	99.1	8	100.0	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

8）海外留学生の受入れや海外への学生派遣の促進，学習効果向上(短期集中型の授業)等のために，柔軟なアカデミックカレンダー(クォーター制,3 学期制,セメスター制等)の導入有無

アカデミックカレンダーについては，大学 21 校(19.3%)，研究科(修士課程)12 校(15.8%)が「導入済み」と回答し，大学 2 校(6.4%)は「導入予定」であった．一方，大学 80 校(73.4%)，短大 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)40 校(52.6%)は「検討していない」と回答した．

表 53：海外からの留学生の受け入れや海外への学生派遣の促進，学習効果向上等のための柔軟なアカデミックカレンダーの導入有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入済み	21	19.3	0	0.0	12	15.8
導入予定	2	1.8	0	0.0	0	0.0
検討中	6	5.5	0	0.0	0	0.0
検討してない	80	73.4	8	100.0	40	52.6
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

5. 看護系学部・学科／研究科の学生の主体性，チャレンジ精神，協調性，責任感を涵養するための取り組みについて

1）(演習科目を除いて)一般教養基礎科目及び専門科目についての 1 クラスあたりのおおよその上限の学生数

一般教養基礎科目の 1 クラスあたりのおおよその上限の学生数については，「51～100 人」が大学 59 校（54.1%），短期大学 4 校（50.0%）と最も多かった．次いで大学では「101～150 人」，短期大学では「1～50 人」が多かった．専門科目でも同様に，「51～100 人」が大学 71 校（65.1%），短期大学 5 校（62.5%）と最も多かった．次いで大学では「101～150 人」，短期大学では「1～50 人」が多かった（表 54）．

表 52：1 クラスあたりのおおよその上限の学生数

	大学（学部・学科）			短期大学（学部・学科）		
	校	%		校	%	
(演習科目を除いて)一般教養科目	0	4	3.7	0	0	0.0
	1～50	6	5.5	1～50	3	37.5
	51～100	59	54.1	51～100	4	50.0
	101～150	23	21.1	101～150	1	12.5
	151～	17	15.6	151～	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0
	校	%		校	%	
(演習科目を除いて)専門科目	0	2	1.8	0	0	0.0
	1～50	9	8.3	1～50	2	25.0
	51～100	71	65.1	51～100	5	62.5
	101～150	24	22.0	101～150	1	12.5
	151～	3	2.8	151～	0	0.0
	計	109	100.0	計	8	100.0

2）1 年時からの演習方式（ゼミ方式）の授業の有無

1 年時から演習方式(ゼミ方式)の授業が行われているかについては，大学 89 校（77.1%），短期大学 4 校（50.0%）が「行われている」と回答し，大学 25 校（22.9%），短期大学 4 校（50.0%）は「行われていない」と回答していた．

表 53：1 年時からの演習方式（ゼミ方式）の授業有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）	
	校	%	校	%
行われている	84	77.1	4	50.0
行われていない	25	22.9	4	50.0
未回答	0	0.0	0	0.0
計	109	100.0	8	100.0

3）教員と学生との質疑応答が積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無

教員と学生との質疑応答が積極的になされるような仕組みを組織的に進めているかでは，大学 55 校(50.4%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)22 校(28.9%)が「組織的に進めている」と回答した.「組織的に進めている」と回答した大学 30 校(27.5%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)15 校(19.7%)は「成績評価の仕組みに加えられるように勧めている」と回答し，大学 25 校(22.9%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科 7 校(9.2%)は「成績評価の仕組みに加えられないが勧めている」と回答していた. 一方，「組織的には進めていない」と回答したのは，大学 54 校(49.5%)，短期大学 6 校(75.0%)，研究科(修士課程)30 校(39.5%)であった(表 54).

表 54：教員と学生との質疑応答が積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている	30	27.5	1	12.5	15	19.7
成績評価の仕組みに加えられないが組織的に進めている	25	22.9	1	12.5	7	9.2
組織的には進めていない	54	49.5	6	75.0	30	39.5
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

4）学生同士のディスカッションが積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無

学生同士のディスカッションが積極的になされるような仕組みを組織的に進めているかについては，大学 59 校(54.2%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)25 校(32.9%)が「組織的に進めている」と回答した.「組織的に進めている」と回答した大学 33 校(30.3%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)15 校(19.7%)は「成績評価の仕組みに加えられるように勧めている」と回答し，大学 26 校(23.9%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)10 校(13.2%)は「成績評価の仕組みに加えられないが勧めている」と回答していた. 一方，「組織的には進めていない」と回答したのは，大学 50 校(45.9%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)26 校(34.2%)であった(表 55).

表 55：学生同士のディスカッションが積極的になされるような仕組みの組織的促進の有無

	大学（学部･学科）		短期大学（学部･学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている	33	30.3	2	25.0	15	19.7
成績評価の仕組みに加えられないが組織的に進めている	26	23.9	2	25.0	10	13.2
組織的には進めていない	50	45.9	4	50.0	26	34.2
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

5）学生によるグループワーク（協働作業によるレポート作成など）の組織的促進の有無

学生によるグループワークを組織的に進めているかについては，大学 50 校(45.9%)，短期大学 3 校(37.5%)，研究科(修士課程)15 校(19.7%)が「組織的に進めている」と回答し，大学 11 校(10.1%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)4 校(5.3%)は「組織的に進める検討をしている」と回答していた. 一方，大学 48 校(44.0%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)31 校(40.8%)は「組織的には進めていない」と回答していた(表 56).

表 56：学生によるグループワーク（協働作業によるレポート作成など）の組織的促進の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	50	45.9	3	37.5	15	19.7
組織的に進める検討をしている	11	10.1	1	12.5	4	5.3
組織的には進めていない	48	44.0	4	50.0	31	40.8
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

6）学生による課題解決型学習（PBL 等）の組織的促進の有無

学生による課題解決型学習（PBL 等）を組織的に進めているかについては，大学 29 校（26.6%），短期大学 2 校（25.0%），研究科（修士課程）13 校（17.1%）が「組織的に進めている」と回答し，大学 18 校（16.5%），短期大学 1 校（12.5%），研究科（修士課程）4 校（5.3%）は「組織的に進める検討をしている」と回答していた．一方，大学 62 校（56.9%），短期大学 5 校（62.5%），研究科（修士課程）35 校（46.1%）は「組織的には進めていない」と回答していた（表 57）．

表 57：学生による課題解決型学習（PBL 等）の組織的促進の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	29	26.6	2	25.0	13	17.1
組織的に進める検討をしている	18	16.5	1	12.5	4	5.3
組織的には進めていない	62	56.9	5	62.5	35	46.1
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

7）授業の中でコンテストや大会などを実施し，競争環境を作る仕組みの組織的促進の有無

授業の中でコンテストや大会などを実施し，競争環境を作る仕組みを組織的に進めているかについては，大学 17 校（15.6%），短期大学 1 校（12.5%），研究科（修士課程）2 校（2.6%）が「組織的に進めている」と回答し，大学 2 校（1.8%），研究科（修士課程）1 校（1.3%）は「組織的に進める検討をしている」と回答していた．一方，大学 90 校（82.6%），短期大学 7 校（87.5%），研究科（修士課程）49 校（64.5%）は「組織的には進めていない」と回答していた（表 58）．

表 58：授業の中でコンテストや大会などを実施し，競争環境を作る仕組みの組織的促進の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	17	15.6	1	12.5	2	2.6
組織的に進める検討をしている	2	1.8	0	0.0	1	1.3
組織的には進めていない	90	82.6	7	87.5	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

8）授業における交流・連携の組織的促進の有無

授業において，交流・連携を組織的に進めているかについては，大学 52 校(47.7%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)19 校(25.0%)が「組織的に進めている」と回答し，大学 7 校(6.4%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)3 校(3.9%)は「組織的に進める検討をしている」と回答していた．一方，大学 50 校(45.9%)，短期大学 3 校(37.5%)，研究科(修士課程)28 校(36.8%)は「組織的には進めていない」と回答していた(表 59)．

表 59：授業において，交流・連携を組織的に進めているか

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	52	47.7	4	50.0	19	25.0
組織的に進める検討をしている	7	6.4	1	12.5	3	3.9
組織的には進めていない	50	45.9	3	37.5	28	36.8
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

9）授業以外で，施設・企業等の人材から直接その経験を聞いたり助言を受けたりする等の機会の有無

授業以外で，施設・企業等の人材から直接その経験を聞いたり助言を受けたりする等の機会については，大学 95 校(87.2%)，短期大学 5 校(62.5%)，研究科(修士課程)28 校(36.9%)が「開催している」と回答した．「開催している」と回答した大学 45 校(41.3%)，短期大学 3 校(37.5%)，研究科(修士課程)11 校(14.5%)は「定期的に開催」と回答し，大学 50 校(45.9%)，短期大学 2 校(25.0%)，研究科(修士課程)17 校(22.4%)は「不定期に開催」と回答した．一方，「開催していない」と回答したのは，大学 14 校(12.86%)，短期大学 3 校(37.5%)，研究科(修士課程)22 校(28.9%)であった(表 60)．

表 60：授業以外で，施設・企業等の人材から直接その経験を聞いたり助言を受けたりする等の機会の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
定期的に開催	45	41.3	3	37.5	11	14.5
不定期に開催	50	45.9	2	25.0	17	22.4
開催していない	14	12.8	3	37.5	22	28.9
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

10）施設・企業等と連携して行うグローバルビジネスをテーマとした授業提供の組織的促進の有無

施設・企業等と連携して行うグローバルビジネスをテーマとした授業を提供することを組織的に進めているかについては，大学 7 校(6.4%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)が「組織的に進めている」と回答し，大学 6 校(5.5%)，研究科(修士課程)5 校(6.6%)は「組織的に進める検討をしている」と回答していた．一方，大学 96 校(88.1%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)45 校(59.2%)は「組織的には進めていない」と回答していた(表 61)．

表 61：施設・企業等と連携して行うグローバルビジネスをテーマとした授業提供の組織的促進の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	7	6.4	0	0.0	1	1.3
組織的に進める検討をしている	6	5.5	0	0.0	5	6.6
組織的には進めていない	96	88.1	8	100.0	45	59.2
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

11）学生同士の交流・協働を図る定常的な制度・取組の有無

学生同士の交流・協働を図る定常的な制度・取組については，大学 30 校（32.6%），短期大学 2 校（25.0%），研究科（修士課程）9 校（11.8%）が「組織的に進めている」と回答し，大学 13 校（14.1%），研究科（修士課程）4 校（5.3%）は「組織的に進める検討をしている」と回答していた．一方，大学 49 校（53.3%），短期大学 6 校（75.0%），研究科（修士課程）39 校（51.3%）は「組織的には進めていない」と回答していた．

表 62：学生同士の交流・協働を図る定常的な制度・取組の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
組織的に進めている	30	32.6	2	25.0	9	11.8
組織的に進める検討をしている	13	14.1	0	0.0	4	5.3
組織的には進めていない	49	53.3	6	75.0	39	51.3
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	92	100.0	8	100.0	76	100.0

12）学生の国内外へのインターンシップを促進させるための制度・取組の有無

学生の国内へのインターンシップを促進させるための制度・取組については，大学 26 校（23.9%），短期大学 1 校（12.5%），研究科（修士課程）5 校（6.6%）が「制度や取組はある」と回答した．一方，「制度や取組はない」と回答したのは，大学 83 校（76.1%），短期大学 7 校（87.5%），研究科（修士課程）45 校（59.2%）であった（表 63）．

また，学生の海外へのインターンシップを促進させるための制度・取組については，大学 5 校（4.6%），研究科（修士課程）1 校（1.3%）が「制度や取組はある」と回答した．一方，「制度や取組はない」と回答したのは，大学 104 校（95.4%），短期大学 8 校（100.0%），研究科（修士課程）49 校（64.5%）であった（表 64）．

表 63：学生の国内へのインターンシップを促進させるための制度・取組の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	26	23.9	1	12.5	5	6.6
ない	83	76.1	7	87.5	45	59.2
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 64：学生の海外へのインターンシップを促進させるための制度・取組の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	5	4.6	0	0.0	1	1.3
ない	104	95.4	8	100.0	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	26	34.2
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

13）学生の国内外へのボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組の有無

学生の国内へのボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組については，大学 60 校(55.0%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)11 校(14.5%)が「制度や取組はある」と回答した．一方，「制度や取組はない」と回答したのは，大学 49 校(45.0%)，短期大学 4 校(50.0%)，研究科(修士課程)42 校(55.3%)であった(表 65)．

また，学生の海外へのボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組については，大学 17 校(15.6%)，研究科(修士課程)4 校(5.3%)が「制度や取組はある」と回答した．一方，「制度や取組はない」と回答したのは，大学 92 校(84.4%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)49 校(64.5%)であった(表 66)．

表 65：学生の国内へのボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	60	55.0	4	50.0	11	14.5
ない	49	45.0	4	50.0	42	55.3
未回答	0	0.0	0	0.0	23	30.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

表 66：学生の海外へボランティア活動への参画を促進させるための制度・取組の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
ある	17	15.6	0	0.0	4	5.3
ない	92	84.4	8	100.0	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	23	30.3
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

14）学共同イベントやプログラムの開発など国内外の大学との連携や交流の有無

共同イベントやプログラムの開発など国内外の大学との連携や交流については，大学 9 校(8.3%)，研究科(修士課程)5 校(6.6%)が「国内外の大学と行っている」と回答した．「国内大学のみと行っている」のは大学 8 校(7.3%)のみであり，「海外大学と行っている」のは，大学 12 校(11.0%)，研究科(修士課程)5 校(6.6%)であった．一方，大学 80 校(73.4%)，短期大学 8 校(100.0%)，研究科(修士課程)42 校(55.3%)は，「行っていない」と回答していた(表 67)．

表 67：共同イベントやプログラムの開発など国内外の大学との連携や交流の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
国内外の大学と行っている	9	8.3	0	0.0	5	6.6
国内大学のみと行っている	8	7.3	0	0.0	0	0.0
海外大学と行っている	12	11.0	0	0.0	5	6.6
行っていない	80	73.4	8	100.0	42	55.3
未回答	0	0.0	0	0.0	24	31.6
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

15）入学決定者に社会体験を行う等の学生の経験を重視した入学時期の弾力化(ギャップイヤー)の導入有無

入学決定者に対し，社会体験を行う等の学生の経験を重視した入学時期の弾力化については，大学 1 校(0.9%)のみが「導入済み」，研究科(修士課程)1 校(1.3%)のみが「導入予定」と回答した．大学 3 校(2.8%)，短期大学 1 校(12.5%)，研究科(修士課程)1 校(1.3%)は「検討中」と回答し，一方，大学 105 校(96.3%)，短期大学 7 校(87.5%)，研究科(修士課程)49 校(64.5%)は「検討していない」と回答していた(表 68)．

表 68：入学決定者に社会体験を行う等の学生の経験を重視した入学時期の弾力化の有無

	大学（学部・学科）		短期大学（学部・学科）		研究科(修士課程)	
	校	%	校	%	校	%
導入している	1	0.9	0	0.0	0	0.0
導入予定	0	0.0	0	0.0	1	1.3
検討中	3	2.8	1	12.5	1	1.3
検討していない	105	96.3	7	87.5	49	64.5
未回答	0	0.0	0	0.0	25	32.9
計	109	100.0	8	100.0	76	100.0

【貴学における育成すべきグローバル人材像】

- 国際的視野で思考できる人
- 国際的な視野を持って世界の人々の安全，健康と福祉に貢献できる人材．教育，実践，研究の分野にて国際水準レベルで活躍できる人材
- 教育目標に「世界的視野で主体的に考え行動する人材の育成」が記され，グローバルな人材育成入試がある
- 多文化を理解し世界（＝万人）に貢献することができる人材の養成に向け「日本福祉大学国際化ビジョン」の具体化を進める
- 地域的・国際的動向に関心をもち，それぞれの地域や国の文化を通して，医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる人材
- 「北海道からアジアへそして世界へ」という大学の教育理念である「国際性の涵養」
- 国際感覚を身につけ国際社会で活動できる人材
- 人種，文化，信条を超えた看護を実践できる看護職者，国際交流や国際協力に貢献できる基本的な姿勢を身につけた看護職者
- 異文化の外国人患者さんに抵抗なく接することが出来る
- 言語及びそれ以外の手段で，相手の意志を汲み取る能力を持つ
- 常に世界に関心を持ち，他の専門職と協働して国内外の保健医療福祉に貢献できる専門職
- 国際的感覚を持ち，国際的に活躍できる医療人
- 外国語理解・表現の基礎的な能力を身につけ，国内外において国際的視野に立って看護を実践する素地を身につける人材
- 基盤づくりについての記載のみの段階で今後の検討となる予定
- 自他を問わず人間を愛し，相互に理解し合い，人種・信条を問わず人間社会の種々の領域に積極的に参加し，看護を通して公共の福祉を推進する人材
- 変化する社会の中で看護が果たすべき社会的責務を理解し，国際的な視点を含め，広く地域の健康に貢献できる基礎的能力を身につけている
- 知性と教養に溢れ，発進力と行動力のある国際性に富んだ人材
- 語学だけでなく，学生時代から海外の看護実践に触れる体験を通して，看護専門職としての国際的な視野を持てるような支援体制が整っている
- 人間がそれぞれに固有の価値をもったかけがえのない存在であることを理解するために必要な知識と感性を身につけ，かかわり合うことができる基礎的能力を養う．人間の尊厳（Human Dignity）と権利（Human Rights)を擁護し，倫理的な判断に基づいて行動することのできる基礎的能力を養う．国際的な視野を持ち，変化する社会のなかでの自らの役割を認識し，看護実践を通じて国内外で社会貢献できる基礎的能力を養う
- 本学では，スーパーグローバル大学創成支援事業での構想に基づき，キャンパスに常に世界のトップレベルの学生が集っている環境を整備し，大学卒業時にはグローバル社会で活躍できる人材の育成に努めている．具体的には，以下のような取り組みを行っている．多様な留学生の受け入れ・奨学金情報の提供・混住型学生寮の拡充・国際標準を充たす学事システムの整備・海外副指導教授制度といった国際連携研究の促進・英語での授業や英語で学位が取得できるプログラムの実施，拡充・海外協定校とのダブル・ディグリープログラムの実施，拡充
- 看護学部教育目標に，6)国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う．と記載あり
- 仏教精神を理想とする人格の完成をめざし，高い志とグローバスな視野を有して，生きる力と環境適応力によって，未来を切り拓き，社会に貢献できる学徳兼備の人材
- Think global,Act localという観点のもとに多様な文化社会の中に生きる人々を理解する
- 建学の精神である「隣人愛」を基盤として，グローバルな視野をもって地域社会に貢献できる人間を育成することを目指している
- 異文化理解，コミュニケーションの手段として外国語を使い，自ら発信できる人材
- 今後の国際化社会及び高度科学技術社会で必要とされるグローバルな視点と高度な専門能力を有する職業人
- 国際的視野をもち創造的思考を深め専門職業人として社会に貢献できる

【グローバル人材育成に関して，貴学部・学科が特に注力していること】

- 大学としては，実施を一部しているが看護学部は平成 27 年開設なので現在は特に計画していない．グローバル化を意識して，リーダーシップ教育，異文化理解（他学部に留学生がいるので部活などの交流など），語学力の強化（夏期の短期語学留学希望者のみ実施）などを基盤に看護教育に人間教養育成に常に配慮した指導を行っている
- 日本文化を知ることも重要であるため，1 年生の科目で文化講座により，華道，茶道，演劇などを取り入れている．また，2 年生では，日本文化研修として禅寺に 1 泊 2 日して，日本文化を体験している
- 国内外で活躍できる語学能力を身につけるために，英語の講師は外国人による授業を実施している
- 私学である事と，理事長の方針で，海外研修等の取組はしていない
- 開設 4 年目の新しい学科であるので，グローバル人材の育成についてはこれから具体的な目標・方策を検討し作成していく予定．国際的に活躍するための基盤として，語学力の強化，自己表現を含めたコミュニケーション力の涵養が重要だと思っている
- まだまだ人材育成実績が残せていない．今後の推進計画等を取組む中で実績を出していきたい
- 国際活動経験者の講義
- 国際的な視点から看護を考えられる視点を持つことができるような人材を育成すること
- 国際看護学，災害看護学，多文化共生看護学など専門科目を設置している
- 4年間の大学生活の中でボランティアも含め，海外で学ぶ機会があり，参加できない学生にも学びを共有するプログラムをもっており，全員に触れる機会を提供している
- 教育課程の中で，「国際医療と看護協力」「医療経済（世界から見た日本の医療経済）」などを導入し，少しでも世界的規模の医療を知りこれからの日本の医療の担い手としての視野を広げるように配置した．また，リーダーシップ力やコミュニケーション技術の必要性を演習・実習などで育成できるように指導している．語学力については，習熟度別にし，到達度を上げるべく工夫中である．当大学はアジアからの留学生もいるので将来的には看護学部も検討する必要性を感じている．現在では，日本に在住している国籍アジア系学生 3 人在籍しているが，日本の高等学校卒業者である
- 国際看護学の科目（必須）で，1週間の海外研修を全員が履修していることの充実
- 一般教養科目の充実
- 医学部は積極的に取り組んでいるが，看護学科はなかなか国際化に着手できない．外国人教員を置くなども看護学科単独ではできないので，国際化は遅れがちである
- 本学部は学年進行中であり，完成年度が過ぎたら海外研修・国際交流などを進めて行きたい
- グローバル人材育成として注力していることは特にないが，国際的に活躍することも視野に入れた教育を行っている
- 国際交流を通して，学術的に提携をし，学部間でも相互受講としている
- 学部生の全員留学
- 大学の方針としてグローバル化を推進するための取組みが色々あるため，できるだけ情報を公開し，大学のグローバル化の取組みに参加するようにしている
- 対話をとおして他者との違いを知る．異文化に対する理解を深めるとともに，自分の文化へのアイデンティティをもつ．人間御尊厳を守り，人間の健康と安寧のために，文化の壁を乗り越え他者とともに課題を考え，その課題解決をはかる
- 国際的な感覚をもち，日本の位置や役割を捉えられる幅広い教養を身に付け，他国の医療専門職と協働できる柔軟な発想と行動ができる基礎的能力を有すること
- 海外の大学との相互交流
- カリキュラムとの両立

【資料　調査表】

大学におけるグローバル人材育成に関する教育の実態調査

【本アンケートの目的・主旨】

◇ 本アンケートは，大学におけるグローバル人材育成に関する教育の現状を把握するものです．

◇ 本アンケートにおけるグローバル人材の定義については特に限定していません．「国際社会で活躍しうる人材」や「国際感覚を身に付けた人材」など，貴学が想定するグローバル人材の育成としてお答えください．

【本アンケートの留意点】

◇ 本アンケートの回答は，学科長または大学の教務等に携わるご担当者様がお答えください．

◇ 設問は，基本的に日本人学生のグローバル化を想定しています．

◇ ご回答内容は，特に断りが無い限り 2016 年 12 月末の情報に基づいてご記入ください．

◇ 回答は全て統計的に処理され回答者が特定・公表されることはありません．また，本アンケート が上記の目的以外に利用されることはありません．

【ご注意事項】

◇ 本アンケートのデータ分析は，日本私立看護系大学協会　教育，学術および文化の国際交流事業(国際交流委員会)が実施しています．

◇ ご記入が済みましたら，kage#global@seinan-jo.ac.jp に 2017 年 3 月 10 までにご送信ください．

◇ 本調査についてご不明の点は下記にお問い合わせください．

西南女学院大学　伊藤・布花原・鹿毛　　E-mail ：kage#global@seinan-jo.ac.jp

Ⅰ．グローバル人材育成に関する貴大学の計画・方針，制度等についてお伺いいたします．

【問 1】基本的事項についてお聞きします．以下の項目についてお答ください．

大学の類型	1．単科大学	2．複合大学	3．総合大学
大学院の有無	1．ない	2．ある（修士課程のみ）	3．ある（修士・博士過程）

【問 2】貴学が公表している中長期計画等にグローバル人材育成に係る事項が記載されていますか

1．記載されている	2．記載されていない
■貴大学では，育成すべきグローバル人材像をどのように描いていますか	

【問 3】グローバル人材育成に関する教育指針（ポリシー等）を策定していますか．

1．策定している	2．策定予定である	3．策定の予定は無い

【問 4】グローバル人材育成に関するアクションプラン（実施期限を決めた行動計画）を策定していますか．

中長期計画等において同様の内容が記載されている場合も含みます．

1．策定している	2．策定予定である	3．策定の予定は無い

【問 5】グローバル人材育成ための環境整備等に関連する目標値を設定していますか.

1．設定している　　2．設定していない

（設定している場合）下記のうち，目標値を定めているものすべてに○をお付けください.

1．受入留学生数　　2．派遣留学生数　　3．外国籍教員数　　4．大学間交流協定数
5．海外派遣教職員数　　6．英語による科目・プログラムの開設数　　7．海外拠点数
8．受入留学生の国・地域数
9．TOEIC などの語学検定スコア（一定レベル以上）取得者数 →具体的に（　　）
10．その他（　　）

【問 6】グローバル人材育成を促進する専門部署や担当を置いていますか.

1．専門部署を置いている　　2．専門部署を置かず，すべての部署で促進を行っている
3．専門部署は置いていないが，専任/兼任の担当者を置いている　　4．置いていない

【問 7】交換留学制度（単位互換・認定の要件を示しているもの）が有りますか

1．ある　　2．ない

【問 8】交換留学について，下記の問いにお答え下さい.

①交換留学人数枠	（　　）人
②交換留学人数枠のうち，派遣留学生数（平成 28 年度）	（　　）人
③交換留学協定を結んでいる大学数	（　　）校
④交換留学協定を結んでいる大学数のうち，実際に派遣を行った大学数（平成28年度）	（　　）校
⑤交換留学協定を結んでいる国・地域数	（　　）国

【問 9】日本人学生の海外留学派遣に関する**大学独自**の経済的補助制度がありますか.

1．ある　　2．ない

【問 10】受入留学生に対する**大学独自**の経済的補助制度は有りますか

1．ある　　2．ない

【問 11】交換留学※1 や短期留学※2 等の制度に関して理解を深めるために，定期的に留学セミナー（協定・協力大学を招いての留学フェア，受入留学生や派遣留学生などの報告会等）を行っていますか.

1．行っている　　2．行っていない

※1「交換留学」とは，大学協定を結んだ大学が相互に留学生を派遣し，受け入れる留学のことを言う.

※2「短期留学」とは，必ずしも我が国での学位取得を目的とせず，大学等における学習，異文化体験，語学の実地 習得などを目的として，

概ね 1 学年以内の教育を受けて単位を修得又は研究指導を受ける留学を言う.

【問 12】受入留学生の学内生活に関して学生等が相談相手となるメンター制度を構築していますか

1．構築している　　2．構築していない

【問 13】日本人学生が異文化のなかで生活を行う短期留学制度や学生交流プログラムがありますか.

1．ある　　2．ない

Ⅱ．看護系学部・学科／研究科についてお伺いいたします．

【問 14】貴学部・学科／研究科において， 把握している直近の数値について記入ください．おおよその数値でも構いません．

	学部・学科	研究科 （修士課程）
① 1 学年の定員数	（ ）名	（ ）名
A 海外からの留学生等の受入状況		
A①-1 学生数のうち受入留学生数	（ ）名	（ ）名
①-1-[1] 受入留学生のうち短期留学生(1 年以内)※1	（ ）名	（ ）名
①-1-[2] 受入留学生のうち学位取得を目的とした留学生(1 年超)	（ ）名	（ ）名
②受入留学生の国・地域数	（ ）国・地域	（ ）国・地域
③卒業に必要な単位数	（ ）単位	（ ）単位
B 海外への学生の派遣状況		
B①-1 学生数のうち短期留学生（1 年以内）※1	（ ）名	（ ）名
①-2 学生数のうち海外研修生（単位認定を行うもの）	（ ）名	（ ）名

※1「短期留学生」とは，必ずしも我が国での学位取得を目的とせず，大学等における学習，異文化体験，語学の実地 習得などを目的として，

概ね 1 学年以内の教育を受けて単位を修得又は研究指導を受ける留学生を言う．

【問 15】外国人在学生についてお聞きします．

	学部・学科	研究科 （修士課程）
① 外国人枠での入試制度を設けていますか．	1．設けている 2．設けていない	1．設けている 2．設けていない
②-1[1] ①で「設けている」と回答した場合，外国人枠は何名ですか．	（ ）名	（ ）名
②-1[2] 外国人枠で留学している在学生は何名ですか．	（ ）名	（ ）名

Ⅲ．看護系学部・学科／研究科の語学力・コミュニケーション力の養成についてお伺いいたします．

【問 16】以下の項目についてお答えください．割合については，おおよその数値で構いません．

	学部・学科	研究科（修士課程）
①英語(外国語)の必修単位数は何単位ですか	（ ）単位	（ ）単位
②英語(外国語)の授業の 1 クラスあたりの受講者数はおおよそ何人ですか．	（ ）人	（ ）人
③英語(外国語)の授業において，ネイティブの教員による授業割合はどのくらいですか．	（ ）%程度	（ ）%程度
④英語(外国語)の授業にグループワーク(会話やプレゼンテーションなど実践的なコミュニケーション力を形成する実習)を取り入れることを組織的に方向づけていますか．(○は 1 つ)	1．方向づけている 2．方向づけていない	

	学部・学科	研究科（修士課程）
⑤習熟度別に編成されている英語(外国語)のクラスは有りますか．(○は１つ)	1．すべての授業が習熟度別クラスである 2．一部の授業が習熟度別クラスである 3．習熟度別クラスは無い	1．すべての授業が習熟度別クラスである 2．一部の授業が習熟度別クラスである 3．習熟度別クラスは無い
⑥第二外国語の必修単位数は何単位ですか．	1．実施している （　　）単位 2．実施していない	1．実施している （　　）単位 2．実施していない
⑦第二外国語の授業の１クラスあたりの受講者数はおおよそ何人ですか．	（　　）人	（　　）人
⑧第二外国語の授業においてネイティブの教員による授業割合はどのくらいですか．	（　　）%	（　　）%
⑨第二外国語の授業にグループワーク（会話やプレゼンテーションなど実践的なコミュニケーション力を形成する実習）を取り入れることを組織的に方向づけていますか．（○は１つ）	1．方向づけている 2．方向づけていない	1．方向づけている 2．方向づけていない
⑩習熟度別に編成されている第二外国語のクラスは有りますか．（○は１つ）	1．すべての授業が習熟度別クラスである 2．一部の授業が習熟度別クラスである 3．習熟度別クラスは無い	1．すべての授業が習熟度別クラスである 2．一部の授業が習熟度別クラスである 3．習熟度別クラスは無い
⑪第二外国語の開設数（言語数）はどれくらいですか．	（　　）言語	（　　）言語
⑫学生がアカデミックライティングに関する指導を受ける環境がありますか．	1．ある　　2．ない	1．ある　　2．ない

【問 17】卒業や進級のために，語学に関して一定以上の資格（スコア）を必須としていますか．

学部・学科	1．必須としている→（具体的に　　）	2．必須としていない
研究科（修士課程）	1．必須としている→（具体的に　　）	2．必須としていない

【問 18】卒業や進級のために，海外への留学を必須としていますか．選択肢から当てはまるものを１つ選んでください．

学部・学科	1．長期（1年以上）の留学を必須としている 2．短期（1 年未満）の留学を必須としている 3．必須としていない
研究科（修士課程）	1．長期（1年以上）の留学を必須としている 2．短期（1 年未満）の留学を必須としている 3．必須としていない

【問 19】語学の授業以外に，英語で行われる科目の履修を義務付けていますか．選択肢から当てはまるものを１つ選んでください．

学部・学科	1．義務付けている	2．義務付けていない
研究科（修士課程）	1．義務付けている	2．義務付けていない

【問 20】一般教養科目，専門科目のそれぞれについて，英語で行われる科目の割合はどれくらいですか.

学部・学科	一般教養科目	全科目のうち（　　）%ぐらい
	専門科目	全科目のうち（　　）%ぐらい
研究科（修士課程）	全科目のうち（　　）%ぐらい	

【問 21】外国の大学との①単位互換，②双方の大学がそれぞれ学位を授与するプログラム（ダブル・ディグリー・プログラム），③共同カリキュラム（ジョイントプログラム）について導入していますか．選択肢から当てはまるものをそれぞれ 1 つ選んでください.

	学部・学科	研究科（修士課程）
①単位	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない
②ダブル・ディグリー・プログラム	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない
③ジョイントプログラム	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない	1．導入済み　2．導入予定である 3．導入を検討している　4．検討していない

【問 22】単位互換を円滑にするため，授業科目の計画的な履修方針に基づいた授業科目名や体系策定（いわゆるコース・ナンバリング制）を導入していますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．導入済み　2．導入予定である　3．導入を検討している　4．検討していない
研究科（修士課程）	1．導入済み　2．導入予定である　3．導入を検討している　4．検討していない

【問 23】成績評価の仕組みについて，お答えください．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．絶対評価が基本である　2．相対評価が基本である
研究科（修士課程）	1．絶対評価が基本である　2．相対評価が基本である

【問 24】GPA 制度を導入していますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．（「不可」や「未受験」を含めた算定方式で）導入している　→問 24 2．（「不可」や「未受験」を含めない算定方式で）導入している　→問 24 3．導入していない　→問 25
研究科（修士課程）	1．（「不可」や「未受験」を含めた算定方式で）導入している　→問 24 2．（「不可」や「未受験」を含めない算定方式で）導入している　→問 24 3．導入していない　→問 25

【GPA 制度を導入している場合】

【問 25】GPA をどのように活用していますか．（それぞれ当てはまるものすべて選び，回答してください）

学部・学科	1．奨学金や授業料免除の基準　2．学生に対する個別学修の基準 3．早期卒業・大学院への早期入学基準　4．大学院入試の選抜基準 5．退学勧告の基準　6．進級や卒業の判定基準 7．交換留学の選抜基準　8．その他（　　）
研究科（修士課程）	1．奨学金や授業料免除の基準　2．学生に対する個別学修の基準 3．早期卒業・大学院への早期入学基準　4．大学院入試の選抜基準 5．退学勧告の基準　6．進級や卒業の判定基準 7．交換留学の選抜基準　8．その他（　　）

【問 26】外国人留学生と日本人学生との交流や協働を図るための定常的な制度やイベントが有りますか．（学部・学科/研究科等の主催のワークショップやキャンプなど．留学生交流サークル等の活動を除く）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 27】グループワークや討論等，プレゼンテーション能力やディベート力の修得を目的とした取り組みを行っていますか．
選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

Ⅳ．看護系学部・学科／研究科の学生の異文化に対する理解やアイデンティティを涵養するための取り組みについてお伺いします．

【問 28】（一般教養科目として）異文化理解や異文化コミュニケーションをテーマとする授業が有りますか．ある場合は，必修ですか．それとも選択ですか．

学部・学科	1．ある（必修である）	2．ある（選択である）	3．ない

【問 29】（一般教養科目として）「日本」の文化や歴史をテーマとする授業が有りますか．ある場合は，必修ですか．
それとも選択ですか．

学部・学科	1．ある（必修である）	2．ある（選択である）	3．ない

【問 30】（専門科目として）科目のなかで，国際社会と関連づけた内容を教授する科目は有りますか．ある場合は，1 科目ですか．それとも複数科目ですか．

学部・学科	1．ある（1 科目である）	2．ある（複数科目である）	3．ない
研究科（修士課程）	1．ある（1 科目である）	2．ある（複数科目である）	3．ない

【問 31】グループワークやフィールドワークなど，外国人留学生と日本人学生が協働で課題を解決するような授業が有りますか．
選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 32】外国人留学生と討論する等，外国語で異文化の人に自らの意見を考え，伝える力やディベート力の修得を目的とした授業がありますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 33】外国人留学生から異文化を学ぶ講演会や討論会などを開催していますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．定期的に開催	2．不定期だが開催	3．開催していない
研究科（修士課程）	1．定期的に開催	2．不定期だが開催	3．開催していない

【問 34】英語のみで学位を取得できるコースが有りますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選び記入してください．

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 35】海外からの留学生の受け入れや海外への学生派遣の促進，学習効果向上(短期集中型の授業)等のために，柔軟なアカデミックカレンダー(クォーター制，3 学期制，セメスター制等)を導入していますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．導入済み	2．導入予定である	3．導入を検討している	4．検討していない
研究科（修士課程）	1．導入済み	2．導入予定である	3．導入を検討している	4．検討していない

Ⅴ．看護系学部・学科／研究科の学生の主体性，チャレンジ精神，協調性，責任感を涵養するための取り組みについてお伺いします．

【問 36】(演習科目を除いて)一般教養基礎科目及び専門科目について，1 クラスあたりのおおよその上限の学生数はどれくらいですか．

学部・学科	一般教養科目	（　　）人程度
	専門科目	（　　）人程度

【問 37】1 年時から演習方式（ゼミ方式）の授業が行われていますか．

学部・学科	1．行われている	2．行われていない

【問 38】教員と学生との質疑応答が積極的になされるような仕組みを組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．質疑応答などの態度が成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている 2．質疑応答などの態度が成績評価の仕組みに加えられないが，組織的に進めている 3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．質疑応答などの態度が成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている 2．質疑応答などの態度が成績評価の仕組みに加えられないが，組織的に進めている 3．組織的には進めていない

【問 39】学生同士のディスカッションが積極的になされるような仕組みを組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．学生同士のディスカッションなどの態度が成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている 2．学生同士のディスカッションなどの態度が成績評価の仕組みに加えられないが，組織的に進めている 3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．学生同士のディスカッションなどの態度が成績評価の仕組みに加えられるよう組織的に進めている 2．学生同士のディスカッションなどの態度が成績評価の仕組みに加えられないが，組織的に進めている 3．組織的には進めていない

【問 40】学生によるグループワーク（協働作業によるレポート作成など）を組織的に進めていますか．一部の科目の場合は除きます．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 41】学生による課題解決型学習（PBL 等）を組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 42】授業の中で，コンテストや大会などを実施し，成績優秀者を発表するなどの競争環境を作る仕組みを組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 43】授業において，施設・企業等からの講師招聘や現場の調査・ヒアリングなど，交流・連携を組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 44】授業以外で，施設・企業等の人材から直接，その経験を聞いたり，助言を受けたりするなどの機会（講演会やワークショップなど）がありますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．定期的に開催している	2．不定期ではあるが開催している	3．開催していない
研究科（修士課程）	1．定期的に開催している	2．不定期ではあるが開催している	3．開催していない

【問 45】施設・企業等と連携して行うグローバルビジネスをテーマとした授業を提供することを組織的に進めていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください．

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 46】学生同士の交流・協働を図る定常的な制度・取組がありますか（留学生と日本人学生，上級生と下級生のパートナー制度など）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない
研究科（修士課程）	1．組織的に進めている	2．組織的に進める検討をしている	3．組織的には進めていない

【問 47】学生の国内へのインターンシップを促進させるための制度・取組がありますか（単位認定，企業等とのマッチング会など）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 48】学生の海外へのインターンシップを促進させるための制度・取組がありますか（単位認定，施設・企業等とのマッチング会など）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 49】学生の国内へボランティア活動や地域活動への参画を促進させるための制度・取組がありますか（単位認定，活動情報の提供など）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 50】学生の海外へボランティア活動への参画を促進させるための制度・取組がありますか（単位認定，活動情報の提供など）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．ある	2．ない
研究科（修士課程）	1．ある	2．ない

【問 51】グローバル人材育成のために，共同イベントやプログラムの開発など国内外の大学と連携や交流を行っていますか．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．国内外の大学と行っている	2．国内大学のみと行っている
	3．海外大学のみと行っている	4．行っていない
研究科（修士課程）	1．国内外の大学と行っている	2．国内大学のみと行っている
	3．海外大学のみと行っている	4．行っていない

【問 52】入学決定者に対し，社会体験を行う等の学生の経験を重視した入学時期の弾力化を行っていますか（いわゆる「ギャップイヤー制度」）．選択肢から当てはまるものを 1 つ選んでください.

学部・学科	1．導入済み	2．導入予定である
	3．導入を検討している	4．検討していない
研究科（修士課程）	1．導入済み	2．導入予定である
	3．導入を検討している	4．検討していない

◎グローバル人材育成に関して，貴学部・学科が特に注力していることは何ですか．また，取組の問題点や日本私立看護系大学協会に求める支援等について，ご自由にお書き下さい．

■特に注力していること
■取組の問題点や日本私立看護系大学協会に求めること

一般社団法人 日本私立看護系大学協会
「平成 28 年度大学におけるグローバル人材育成に関する教育の実態調査」
報告書

2017(平成 29)年 3 月

発行　一般社団法人 日本私立看護系大学協会　教育，学術および文化の国際
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-6-10 近清堂ビル 6 階
TEL：03-6261-2071　FAX：03-6261-2072
E－Mail jpncs@jade.dti.ne.jp

担当　教育，学術および文化の国際交流事業
伊藤直子，布花原明子，鹿毛美香（西南女学院大学）
小山眞理子，藤井知美（日本赤十字広島看護大学）